

2018 年(平成 30 年)度

モジュール制地域言語科目履修上の注意

「地域言語 A」としての履修について、

- ・言語文化学部の学生は、学部を卒業するまでに少なくとも 28 単位以上を履修することが必要です。
- ・国際社会学部の学生は、学部を卒業するまでに少なくとも 20 単位以上を履修することが必要です。
- ・言語文化学部、国際社会学部ともに、第 2 年次末までに少なくとも 15 単位以上履修できていないと 3 年次に進級できません。
- ・モジュール制の地域言語科目の特徴は、一つの授業が 1 セメスター（＝1 単位）で完結すること、すべての授業がカテゴリと水準によって分類され、受講生の語学水準、進度、学部での全体の学習計画に応じて選択的に履修できることにあります。
- ・モジュール制の各地域言語科目を履修するにあたっては以下のことに留意してください。

「地域言語 C」としての履修についても、以下に説明されていますので、指示に従ってください。

☆ ポーランド語

モジュールコードの説明

世界教養プログラムの科目名称「ポーランド語 I-1, 2, 3…」は原則として年度によって変わりませんが、モジュールコードは年度に応じて異なります。

モジュールコードは、授業のカテゴリとレベルなどを表す記号から成り立っています。

S は「世界教養プログラム」において開講されていることを表します。

PL はポーランド語を意味します。

次の 2 桁は年度を表し、たとえば 2018 年度は 18 に、2030 年度は 30 になります。

年度の次には 1 または 2 が挿入され、それぞれ春学期の授業、秋学期の授業を表しています。

開講学期を示す数字の次には以下のカテゴリを示す 1 文字のアルファベットがきます。

G 文法

C コミュニケーション

S プレゼンテーション

W 作文

H 聴解

R 読解

T 翻訳

V 語彙構築

B 基礎

カテゴリーの次にくる 1～6 の数字はその授業のレベルを示しています。学年とは無関係です。

最後から 2 番目のアルファベットは、その授業が他の授業と連動しているかどうかを表し、X であれば独立した授業ですが、A と B は A の授業と B の授業が連動しているため、同時に履修しなければなりません。モジュールコードの最後が R になっている科目は、授業のコンテンツが毎回異なり、繰り返して履修できる反復履修可能科目であり、モジュールコードが X で終わっている授業は一度しか履修できません。

- * 1 年生用に特化して開講されている授業はすべて反復履修できない、かつ必修の授業ですので注意してください。それらの単位を修得できなかった人は、その科目を再履修して下さい。
- * 同じカテゴリーの科目は、留学してレベルが上がった場合などを除き、原則として、レベルをとばして履修できません。たとえば、「文法 2」の単位を修得していなければ、「文法 3」を履修することはできません。留学から帰って「飛び級」をする時は、受講したい授業の先生と相談して予め必要レベルのテストを受けるか、留学先で発行された成績表、ポーランド語検定試験の合格証明書を提示するなどしてください。

地域言語 A としての履修

1 年生

(1) 春学期には、次の 5 コマを履修して下さい。**すべて必修**です。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
地域言語 A (ポーランド語 I-1)	文法 1 A	SPL181G1AX	森田 耕司
地域言語 A (ポーランド語 I-2)	文法 1 B	SPL181G1BX	森田 耕司
地域言語 A (ポーランド語 I-3)	コミュニケーション 1	SPL181C1XX	ブルスコタ カロリナ
地域言語 A (ポーランド語 I-4)	プレゼンテーション 1	SPL181S1XX	ブルスコタ カロリナ
地域言語 A (ポーランド語 I-5)	作文 1	SPL181W1XX	石川 グラジナ

(2) 秋学期には、次の 5 コマを履修して下さい。**すべて必修**です。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
地域言語 A (ポーランド語 I-6)	作文 2	SPL182W2XX	石川 グラジナ
地域言語 A (ポーランド語 I-7)	文法 2 A	SPL182G2AX	森田 耕司
地域言語 A (ポーランド語 I-8)	文法 2 B	SPL182G2BX	森田 耕司
地域言語 A (ポーランド語 I-9)	コミュニケーション 2	SPL182C2XX	ブルスコタ カロリナ
地域言語 A (ポーランド語 I-10)	プレゼンテーション 2	SPL182S2XX	ブルスコタ カロリナ

2 年生

(1) 春学期には、次の中から選択して履修して下さい。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-1)	文法 3	SPL181G3XX	福島 千穂
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-2)	コミュニケーション 3	SPL181C3XX	ブルスコタ カロリナ
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-3)	プレゼンテーション 3	SPL181S3XX	ブルスコタ カロリナ
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-4)	作文 3	SPL181W3XX	三井 レナータ
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-5)	聴解 1	SPL181H1XX	ブルスコタ カロリナ

(2) 秋学期には、次の中から選択して履修して下さい。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-6)	コミュニケーション 4	SPL182C4XX	ブルスコタ カロリナ
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-7)	プレゼンテーション 4	SPL182S4XX	ブルスコタ カロリナ
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-8)	作文 4	SPL182W4XX	三井 レナータ
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-9)	読解 1	SPL182R1XX	福島 千穂
地域言語 A (ポーランド語Ⅱ-10)	語彙構築 1	SPL182V1XX	森田 耕司

すでにポーランド語を学習したことがある、あるいは家庭でポーランド語を使用しているといったような人、また短期留学などで語学力が向上した人は、上記の授業に加えて（あるいは替えて）下記の授業も履修することが可能です。そういう場合はポーランド語代表教員と早めに相談してください。

一般的には下記の科目は3年次以上の人や科目等履修生を対象に開講される地域言語 A (ポーランド語Ⅲ) の授業です。

春学期

コミュニケーション 5 (SPL181C5XR) [ブルスコタ カロリナ]

コミュニケーション 6 (SPL181C6XR) [ブルスコタ カロリナ]

翻訳 1 (SPL181T1XR) [森田 耕司]

読解 2 (SPL181R2XR) [福島 千穂]

読解 3 (SPL181R3XR) [久山 宏一]

秋学期

コミュニケーション 5 (SPL182C5XR)	[石川 グラジナ]
作文 5 (SPL182W5XR)	[プルスコタ カロリナ]
作文 6 (SPL182W6XR)	[プルスコタ カロリナ]
聴解 2 (SPL182H2XR)	[プルスコタ カロリナ]
翻訳 2 (SPL182T2XR)	[三井 レナータ]
読解 3 (SPL182R3XR)	[福島 千穂]
読解 4 (SPL182R4XR)	[久山 宏一]

地域言語Cとしての履修

初めてポーランド語を学ぶ人は、必ず下記の「ポーランド語基礎 1 (SPL181B1XX)」から始めてください。
まったくの初学者でない場合は、「地域言語 C と共通」として開講されている「地域言語 A」の授業の中から自由に選んで履修できますが、その授業がどのような内容とレベルのものであるか、必ず事前にポーランド語代表教員に問い合わせ、相談してください。

地域言語 A とは別に、特に地域言語 C、外国語学部研究言語科目として開設されるのは次の授業です。

地域言語 C (ヨーロッパ諸語 1)	ポーランド語基礎 1 (SPL181B1XX)	[福島 千穂]
地域言語 C (ヨーロッパ諸語 2)	ポーランド語基礎 2 (SPL182B2XX)	[福島 千穂]

☆ チェコ語

I. 1 年次学生

(1) 春学期には、下記の 5 コマを履修してください。

- チェコ語 I-1 (文法 1A)
- チェコ語 I-2 (文法 1B)
- チェコ語 I-3 (コミュニケーション 1A)
- チェコ語 I-4 (コミュニケーション 1B)
- チェコ語 I-5 (聴解 1)

(2) 上記の5単位が取得できた学生は、秋学期には次の5コマを履修してください。

- チェコ語Ⅰ－6 (文法2A)
- チェコ語Ⅰ－7 (文法2B)
- チェコ語Ⅰ－8 (コミュニケーション2A)
- チェコ語Ⅰ－9 (コミュニケーション2B)
- チェコ語Ⅰ－10 (聴解2)

Ⅱ. 2年次学生 (チェコ語Ⅰ－1～10の単位を取得した学生)

(1) 春学期には、基本的に以下の授業を履修してください。

- チェコ語Ⅱ－1 (文法3A)
- チェコ語Ⅱ－2 (文法3B)
- チェコ語Ⅱ－3 (コミュニケーション3A)
- チェコ語Ⅱ－4 (コミュニケーション3B)
- チェコ語Ⅱ－5 (聴解3)

(2) 上記の5単位が取得できた学生は、秋学期には基本的に以下の授業を履修してください。

- チェコ語Ⅱ－6 (読解1A)
- チェコ語Ⅱ－7 (読解1B)
- チェコ語Ⅱ－8 (コミュニケーション4A)
- チェコ語Ⅱ－9 (コミュニケーション4B)
- チェコ語Ⅱ－10 (聴解4)

(3) 3年次への進級要件は15単位です。文法1～3、および読解1の単位を取得できなかった場合は、1学期遅れで以下の授業が用意されています。

- チェコ語Ⅰ－1 (秋学期開講：文法1)
- チェコ語Ⅰ－6 (春学期開講：文法2)
- チェコ語Ⅱ－1 (秋学期開講：文法3)
- チェコ語Ⅱ－6 (春学期開講：読解1)

Ⅲ. 3年次学生 (チェコ語Ⅰ 1～10 およびチェコ語Ⅱ 1～10の単位が取得できた学生)

(1) 春学期には以下の授業を履修してください。

- チェコ語Ⅲ－2

(2) 秋学期には以下の授業を履修してください。

チェコ語Ⅲ－6

(3) 以上に加えて、チェコ語Ⅲ－1, チェコ語Ⅲ－3, チェコ語Ⅲ－5, チェコ語Ⅲ－7 (すべて読解2) が開講されています。読解2はリピート可能ですから、よく計画して卒業に必要な単位を取得してください。

IV. 4 年次学生

(1) 春学期には以下の授業を履修してください。

チェコ語Ⅲ－4

(2) 秋学期には以下の授業を履修してください。

チェコ語Ⅲ－8

(3) 以上に加えて、チェコ語Ⅲ－1, チェコ語Ⅲ－3, チェコ語Ⅲ－5, チェコ語Ⅲ－7 (すべて読解2) が開講されています。読解2はリピート可能ですから、よく計画して卒業に必要な単位を取得してください。

地域言語Cとしての履修

(1) 初めてチェコ語を学ぶ学生は、秋学期開講のチェコ語Ⅰ－1から履修できます。

(2) 『授業科目概要』の各授業の内容をよく読み、担当講師と相談の上、履修する授業を決定してください。

・「チェコ語」履修上の注意

(1) 初めてチェコ語を学ぶ人は、秋学期(木・3)のチェコ語初級(1)から履修できます。

(2) 『授業科目概要』の各授業の内容をよく読み、担当講師と相談の上、履修する授業を決定してください。

☆ ウズベク語

地域言語 A としての履修（ロシア語／中央アジア地域（平成28年度以降入学者）

春学期・秋学期に開講される授業を科目名の番号順に履修してください。詳細は授業時に指示します。

地域言語 C としての履修

- (1) 初めてウズベク語を学ぶ学生は、以下の授業を履修してください。この授業は、他専攻の学生の
みを対象としたもので、中央アジア地域（ロシア語）の学生は履修することができません。春学
期と秋学期を通じ、1年間をかけてウズベク語の基礎的な文法を学習します（この授業は2013年
度まで世界教養科目「世界のことば」として開講されていたものです）。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 C（アジア諸語 1）	ウズベク語初級 1	木村 暁	春 月・4
地域言語 C（アジア諸語 2）	ウズベク語初級 2	木村 暁	秋 月・4

- (2) 原則として上記の二つの授業を受講した学生のみが、以下の読解の授業を履修することができま
す。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 C（アジア諸語 1）	ウズベク語読解 A1	木村 暁	春 月・2
地域言語 C（アジア諸語 2）	ウズベク語読解 A2	木村 暁	秋 月・2
地域言語 C（アジア諸語 1）	ウズベク語読解 B1	島田 志津夫	春 火・3
地域言語 C（アジア諸語 2）	ウズベク語読解 B2	島田 志津夫	秋 火・3

- (3) ネイティブ講師による以下の会話の授業は、(1)の文法の授業を前年度以前に受講済みの者のみ
が履修できます。ウズベク語文法の知識のない学生は、原則として会話の授業のみを履修するこ
とはできません。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 C（アジア諸語 1）	ウズベク語会話 IA	クルボノヴァ	春 木・3
地域言語 C（アジア諸語 2）	ウズベク語会話 IB	未定	秋 木・3
地域言語 C（アジア諸語 1）	ウズベク語会話 IIA	クルボノヴァ	春 木・2
地域言語 C（アジア諸語 2）	ウズベク語会話 IIB	未定	秋 木・2

- (4) 以下のカザフ語とウイグル語の授業については履修の制限はなく、誰でも自由に履修することができます。

(これらの授業は 2013 年度まで世界教養科目「世界のことば」として開講されていたものです)。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 C (アジア諸語 1)	カザフ語基礎	坂井 弘紀	春 月・5
地域言語 C (アジア諸語 2)	初級現代ウイグル語	菅原 純	夏 集中

- (5) その他、詳細については、個別に担当教員に相談してください。

☆ モンゴル語

地域言語 A としての履修

言語文化学部・国際社会学部共通授業でモジュールコードも共通です。

I. 1 年次学生

- (1) 春学期には下記の 5 コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A (モンゴル語 I-1)	SMN181G1AX	文法 1A	岡田 和行	月・3
地域言語 A (モンゴル語 I-2)	SMN181G1BX	文法 1B	岡田 和行	金・3
地域言語 A (モンゴル語 I-3)	SMN181C1AX	会話 1A	ガルバヤル	火・3
地域言語 A (モンゴル語 I-4)	SMN181C1BX	会話 1B	ガルバヤル	水・2
地域言語 A (モンゴル語 I-5)	SMN181W1XX	作文 1	温品 廉三	水・1

- (2) 秋学期には下記の 5 コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A (モンゴル語 I-6)	SMN182G2AX	文法 2A	岡田 和行	月・3
地域言語 A (モンゴル語 I-7)	SMN182G2BX	文法 2B	岡田 和行	金・3
地域言語 A (モンゴル語 I-8)	SMN182C2AX	会話 2A	ガルバヤル	火・3
地域言語 A (モンゴル語 I-9)	SMN182C2BX	会話 2B	ガルバヤル	水・2
地域言語 A (モンゴル語 I-10)	SMN182W2XX	作文 2	温品 廉三	水・1

II. 2 年次学生

(1) 春学期には下記の5コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-1)	SMN181C3AX	会話 3A	ガルバヤル	水・1
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-2)	SMN181C3BX	会話 3B	ガルバヤル	木・3
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-5)	SMN181R1XR	講読 1	岡田 和行	水・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-7)	SMN181W3XX	作文 3	温品 廉三	金・3
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-9)	SMN181H1XX	聴解 1	ガンツェツェグ	火・2

(2) 秋学期には下記の5コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-3)	SMN182C4AX	会話 4A	ガルバヤル	水・1
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-4)	SMN182C4BX	会話 4B	ガルバヤル	木・3
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-6)	SMN182R1XR	講読 1	温品 廉三	水・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-8)	SMN182W4XX	作文 4	温品 廉三	金・3
地域言語 A (モンゴル語Ⅱ-10)	SMN182H2XX	聴解 2	ガンツェツェグ	火・2

Ⅲ. 3-4 年次学生

(1) 春学期には下記の4コマから選択履修すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	曜日・時限
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-1)	SMN181C5XR	会話 5	ガルバヤル	木・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-3)	SMN181R2XR	講読 2	青木 雅浩	月・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-4)	SMN181W5XR	作文 5	温品 廉三	金・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-6)	SMN181R3XR	講読 3	上村 明	火・1

(2) 秋学期には下記の4コマから選択履修すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	曜日・時限
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-2)	SMN182C5XR	会話 5	ガルバヤル	木・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-5)	SMN182R2XR	講読 2	青木 雅浩	月・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-7)	SMN182W5XR	作文 5	温品 廉三	金・2
地域言語 A (モンゴル語Ⅲ-8)	SMN182R3XR	講読 3	岡田 和行	火・1

【注意事項】

1. 1 年次学生が春学期に岡田先生の「文法 1A」「文法 1B」の試験で不可（F 評価）を取った場合は、夏期集中と翌年度の春学期（水・2）に以下の再履修者用科目を受講すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 A（モンゴル語 I-1）	SMN182G1XX	文法 1	温品 廉三	夏期集中
地域言語 A（モンゴル語 I-2）	SMN181G2XX	文法 2	温品 廉三	春・水・2

2. 1 年次学生が春学期にガルバヤル先生の「会話 1A」「会話 1B」の試験で不可（F 評価）を取った場合は、夏期集中と翌年度の春学期（月・2）に以下の再履修者用科目を受講すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 A（モンゴル語 I-3）	SMN182C1XX	会話 1	岡田 和行	夏期集中
地域言語 A（モンゴル語 I-4）	SMN181C2XX	会話 2	岡田 和行	春・月・2

3. 1 年次学生が秋学期に岡田先生の「文法 2A」「文法 2B」の試験で不可（F 評価）を取った場合は、翌年度の秋学期に同じ「文法 2A」「文法 2B」を再履修すること。2 年次学生用の岡田先生の「講読 1」を履修することはできない（温品先生の「講読 1」は履修可）。

4. 1 年次学生が秋学期にガルバヤル先生の「会話 2A」「会話 2B」の試験で不可（F 評価）を取った場合は、翌年度の秋学期に同じ「会話 2A」「会話 2B」を再履修すること。2 年次学生用のガルバヤル先生の「会話 3A」「会話 3B」を受講することはできない。

地域言語 C としての履修

- （1）モンゴル語をはじめて学習する人（入門レベル）は、以下の「文法 1・2」と「会話 1・2」の 2 コマを同時に履修してください。場合によっては「文法」か「会話」のいずれか 1 コマだけを履修することも可能です。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 C（アジア諸語 1）	SMN181G2XX	文法 2	温品 廉三	春・水・2
地域言語 C（アジア諸語 2）	SMN182G1XX	文法 1	温品 廉三	夏期集中
地域言語 C（アジア諸語 1）	SMN181C2XX	会話 2	岡田 和行	春・月・2
地域言語 C（アジア諸語 2）	SMN182C1XX	会話 1	岡田 和行	夏期集中

なお、この 2 コマは、「地域言語 A（モンゴル語 I-1, 2, 3, 4）」の単位を取得できなかった学生の再履修者用科目と共通科目で、春学期が「文法 2」「会話 2」、夏期集中が「文法 1」「会話 1」となっていますが、他専攻の学生や学外の科目等履修生が、「地域言語 C（アジア諸語）」として履修する場合は、

夏期集中の「文法 1」「会話 1」から履修し、引き続き次年度春学期開講の「文法 2」「会話 2」を履修するようにしてください。

(2) モンゴル語をすでに学習した人(中級レベル)は、以下の「講読 2」と「講読 3」を履修してください。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
地域言語 C(アジア諸語 1)	SMN181R2XR	講読 2	青木 雅浩	春・月・2
地域言語 C(アジア諸語 2)	SMN181R3XR	講読 3	上村 明	春・火・1

上記以外のモンゴル語の科目を「地域言語 C(アジア諸語)」として履修したい場合は、地域言語 A(モンゴル語)の代表教員に相談すること。

☆ インドネシア語

地域言語 A としての履修

I. 1 年次

(1) 春学期には、下記の 5 コマを必ず履修すること。

科目名	授業題目名	[モジュールコード]
地域言語 A(インドネシア語 I-1)	会話 1 A	[SIN181C1AX]
地域言語 A(インドネシア語 I-2)	会話 1 B	[SIN181C1BX]
地域言語 A(インドネシア語 I-3)	文法 1 A	[SIN181G1AX]
地域言語 A(インドネシア語 I-4)	文法 1 B	[SIN181G1BX]
地域言語 A(インドネシア語 I-5)	作文 1	[SIN181W1XX]

(2) 秋学期には、単位の修得状況によって、以下の通り履修すること。

A) 春学期開講の「文法 1 A/B」「会話 1 A/B」「作文 1」の単位を修得したら、引き続き以下の 5 コマを履修する。

科目名	授業題目名	[モジュールコード]
地域言語 A(インドネシア語 I-6)	会話 2 A	[SIN182C2AX]
地域言語 A(インドネシア語 I-7)	会話 2 B	[SIN182C2BX]
地域言語 A(インドネシア語 I-8)	文法 2 A	[SIN182G2AX]

地域言語 A (インドネシア語 I-9)	文法 2 B	[SIN182G2BX]
地域言語 A (インドネシア語 I-10)	作文 2	[SIN182W2XX]

- B) 春学期開講の「文法 1 A/B」「会話 1 A/B」「作文 1」のうち単位未修得のものについては、秋学期開講の以下の授業から単位未修得のカテゴリーの授業を履修する。

科目名	授業題目名	[モジュールコード]
地域言語 A (インドネシア語 I-2)	会話 1	[SIN182C1XX]
地域言語 A (インドネシア語 I-4)	文法 1	[SIN182G1XX]
地域言語 A (インドネシア語 I-5)	作文 1	[SIN182W1XX]

この場合、文法 1 および会話 1 についてはそれぞれ、卒業までに「反復履修可」の授業から不足分を補うことになる。

- (3) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」は必修であり、これらの単位が未修得の場合は卒業できない。また「会話 1」「作文 1」の単位が未修得の場合には、それぞれ「会話 3」「作文 3」を履修することができない。

II. 2 年次

- (1) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」の単位を修得した者は、基本的に以下の授業を履修すること。

春学期	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
	地域言語 A (インドネシア語 II-1)	会話 3 J	[SIN181C3JX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-2)	読解 1 J	[SIN181R1JX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-3)	読解 1 L	[SIN181R1LX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-4)	読解 1 N	[SIN181R1NX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-5)	作文 3 J	[SIN181W3JX]

秋学期	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
	地域言語 A (インドネシア語 II-6)	会話 3 K	[SIN182C3KX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-7)	読解 1 K	[SIN182R1KX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-8)	読解 1 M	[SIN182R1MX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-9)	読解 1 O	[SIN182R1OX]
	地域言語 A (インドネシア語 II-10)	作文 3 K	[SIN182W3KX]

その他の授業については、個別に相談すること。

(2) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」の単位を修得できなかった者は、これらの授業を優先して履修すること。

(3) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」は必修であり、これらの単位が未修得の場合は卒業できない。また「会話 1」「作文 1」の単位が未修得の場合には、それぞれ「会話 3」「作文 3」を履修することができない。

(4) その他、詳細については、個別に相談すること。

Ⅲ. 3～4 年次

(1) 基本的に、以下の授業から自らの履修計画に基づいて選択し履修すること。なお、「作文 4」、「読解 2 J」(春学期)、「会話 4」「読解 2 K」(秋学期)を 3 年次で履修し、それに引き続く形で 4 年次に残りの授業を履修することが望ましい。また、言語文化学部の学生は、これらの授業から 8 単位が必修となる。

春学期	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-1)	作文 4	[SIN181W4XR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-2)	作文 5	[SIN181W5XR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-3)	読解 2 J	[SIN181R2JR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-4)	読解 3 J	[SIN181R3JR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-4)	読解 3 L	[SIN181R3LR]

秋学期	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-5)	会話 4	[SIN182C4XR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-6)	会話 5	[SIN182C5XR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-7)	読解 2 K	[SIN182R2KR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-8)	読解 3 K	[SIN182R3KR]
	地域言語 A (インドネシア語Ⅲ-8)	読解 3 M	[SIN182R3MR]

(2) その他、詳細については、個別に教員に相談すること。

地域言語Cとしての履修

※1 国際社会学部オセアニア地域において指定を受けた学生は、地域（オセアニア）担当教員および地域言語（インドネシア語）代表教員の指示に従って下さい。

※2 上記以外の学生は、以下の事項に従って下さい。

- (1) インドネシア語の履修を希望する者は、事前に地域言語代表教員に相談しに来ること。
- (2) 初めてインドネシア語を学ぶ者は、秋学期開講の「会話1 [SIN182C1XX]」（火曜3限）か「文法1 [SIN182G1XX]」（金曜5限）またはその両方を受講すること。なお「作文1 [SIN182W1XX]」（水曜1限）の受講も希望する場合は、「文法1」を同時に受講するか、すでに履修済みであること。
- (3) 春学期開講の「会話2 [SIN181C2XX]」（火曜3限）、「文法2 [SIN181G2XX]」（金曜5限）および「作文2 [SIN181W2XX]」を受講する場合、それぞれ「会話1」「文法1」「作文1」を履修済みであること。なお、「作文2」の履修には、「文法2」を同時に受講するか、すでに履修済みであること。
- (4) 春学期開講の「会話1A」「会話1B」「文法1A」「文法1B」「作文1」、および秋学期開講の「会話2A」「会話2B」「文法2A」「文法2B」「作文2」の受講は認めない。

☆ マレーシア語

地域言語Aとしての履修

I. 1年次学生【マレーシア語 I】

マレーシア語を地域言語Aとする1年次学生は春学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する5コマの授業を履修して下さい。

春学期 文法 1A, 1B (SMAG1A, SMAG1B)	野元	<必修>
会話 1A, 1B (SMAC1A, SMAC1B)	ファリダ	<必修>
表現 1 (SMAE1X)	アハマド・ムザファル	<必修>
秋学期 文法 2A, 2B (SMAG2A, SMAG2B)	野元	<必修>
会話 2A, 2B (SMAC2A, SMAC2B)	ファリダ	<必修>
表現 2 (SMAE2X)	アハマド・ムザファル	<必修>

・同一種目に属する複数の授業（AとBで分かれている授業）は同一の教員が担当し、AとBで同じ成績評価がなされます。

Ⅱ. 2 年次学生【マレーシア語ⅠⅠ】

マレーシア語を地域言語 A とする 2 年次学生は春学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する 5 コマの授業を履修して下さい。

春学期 会話 3A, 3B (SMAC3A, SMAC3B)	ファリダ	<必修>
読解 1A, 1B (SMAR1A, SMAR1B)	左右田、戸加里	<必修>
表現 3 (SMAE3X)	アハマド・ムザファル	<必修>
秋学期 会話 4A, 4B (SMAC4A, SMAC4B)	ファリダ	<必修>
読解 2A, 2B (SMAR2A, SMAR2B)	左右田、戸加里	<必修>
表現 4 (SMAE4X)	アハマド・ムザファル	<必修>

・読解を除く、同一種目に属する複数の授業（A と B で分かれている授業）は同一の教員が担当し、A と B で同じ成績評価がなされます。

Ⅲ. 3 年次学生【マレーシア語ⅠⅠⅠ】

マレーシア語を地域言語 A とする言語文化学部の 3 年次学生は春学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する 2-4 コマの授業を履修して下さい。

春学期 読解 3 (SMAR3X)	戸加里	<必修>
表現 5 (SMAE5X)	ファリダ	<選択必修>
表現 7 (SMAE7X)	野元	<選択必修>
ジャウィ 1 (SMAJ1X)	ファリダ	<選択必修>
秋学期 読解 4 (SMAR4X)	戸加里	<必修>
表現 6 (SMAE6X)	ファリダ	<選択必修>
表現 8 (SMAE8X)	ファリダ	<選択必修>

Ⅳ. 4 年次学生【マレーシア語ⅠⅠⅠ】

マレーシア語を地域言語 A とする言語文化学部の 4 年次学生は春学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する 2-5 コマの授業を履修して下さい。

春学期 読解 5 (SMAR5X)	ファリダ	<必修>
読解 3 (SMAR3X)	戸加里	<選択>
表現 5 (SMAE5X)	ファリダ	<選択必修>

表現 7	(SMAE7X)	野元	<選択必修>
ジャウィ 1	(SMAJ1X)	ファリダ	<選択必修>
秋学期 読解 6	(SMAR6X)	ファリダ	<必修>
読解 4	(SMAR4X)	戸加里	<選択>
表現 6	(SMAE6X)	ファリダ	<選択必修>
表現 8	(SMAE8X)	ファリダ	<選択必修>

地域言語Cとしての履修

- (1) マレーシア語の履修を希望する者は、事前に地域言語責任者に相談して下さい。
- (2) 「文法 1A・1B」(春学期開講)、「文法 2A・2B」(秋学期開講)、「会話 1A・1B」(春学期開講)、「会話 2A・2B」(秋学期開講)は、AとBが一連の内容をもつ授業ですので、AとBの2コマを同時に履修してください(2コマ2単位を一括して評価します)。
- (3) 「会話 1A・1B」(春学期開講)、「会話 2A・2B」(秋学期開講)を履修する方は、「文法 1A・1B」(春学期開講)、「文法 2A・2B」(秋学期開講)をすでに履修済みであるか、同時に履修することが望ましいです。

☆ フィリピン語

地域言語Aとしての履修

I. 1 年次

以下をすべて履修してください。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 1A (SPH181G1AX)	地域言語 A (フィリピン語 I-1)	長屋尚典 月 3
文法 1B (SPH181G1BX)	地域言語 A (フィリピン語 I-2)	長屋尚典 火 3
文法 1C (SPH181G1CX)	地域言語 A (フィリピン語 I-3)	高野邦夫 金 3
文法 1D (SPH181G1DX)	地域言語 A (フィリピン語 I-4)	リース・カセル 金 1
会話 1A (SPH181C1A)	地域言語 A (フィリピン語 I-5)	パルマヒル 火 2

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 2A (SPH182G1AX)	地域言語 A (フィリピン語 I-6)	長屋尚典 月 3
文法 2B (SPH182G1BX)	地域言語 A (フィリピン語 I-7)	長屋尚典 火 3

文法 2C (SPH182G1CX)	地域言語 A (フィリピン語 I-8)	高野邦夫 金 3
文法 2D (SPH182G1DX)	地域言語 A (フィリピン語 I-9)	リース・カセル 金 1
会話 2A (SPH182C1A)	地域言語 A (フィリピン語 I-10)	パルマヒル 火 2

II. 2 年次

以下をすべて履修してください。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 3A (SPH181G2AX)	地域言語 A (フィリピン語 II-1)	パルマヒル 火 3
文法 3B (SPH181G2BX)	地域言語 A (フィリピン語 II-2)	リース・カセル 金 3
文法 3C (SPH181G2CX)	地域言語 A (フィリピン語 II-3)	パルマヒル 金 1
文法 3D (SPH181G2DX)	地域言語 A (フィリピン語 II-4)	長屋尚典 火 2
会話 3A (SPH181C2A)	地域言語 A (フィリピン語 II-5)	小川英文 水 2

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 4A (SPH182G2AX)	地域言語 A (フィリピン語 II-6)	パルマヒル 火 3
文法 4B (SPH182G2BX)	地域言語 A (フィリピン語 II-7)	リース・カセル 金 3
文法 4C (SPH182G2CX)	地域言語 A (フィリピン語 II-8)	高野邦夫 金 1
文法 4D (SPH182G2DX)	地域言語 A (フィリピン語 II-9)	長屋尚典 火 2
会話 4A (SPH182C2A)	地域言語 A (フィリピン語 II-10)	小川英文 水 2

III. 3 年次学生

3 年次春学期には、以下の科目のうち、1 つを履修してください。

(1) 春学期

留学を考えている人は、高野先生のこの授業を取ってください。

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
会話 5 (SPH181C3A)	地域言語 A (フィリピン語 III-1)	パルマヒル 月 2
読解 A (SPH181C4LR)	地域言語 A (フィリピン語 III-3)	高野邦夫 水 2

(2) 秋学期

3 年次秋学期には、以下の科目のうち、春学期に続いて、会話 6 あるいは読解 B を履修して下さい。

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
会話 6 (SPH182C3B)	地域言語 A (フィリピン語 III-2)	パルマヒル 月 2

読解 B (SPH182R4LR)	地域言語 A (フィリピン語 III-4)	パルマヒル 水 2
-------------------	-----------------------	-----------

IV. 4 年次学生

4 年次には、以下の科目のうち、1 つを履修してください。

(1). 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
読解 C (SPH181R4KR)	地域言語 A (フィリピン語 III-5)	長屋尚典 水 2
作文 A (SPH181W4MR)	地域言語 A (フィリピン語 III-6)	パルマヒル 月 3

(2). 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
読解 D (SPH182R4KR)	地域言語 A (フィリピン語 III-7)	長屋尚典 水 2
作文 B (SPH182W4MR)	地域言語 A (フィリピン語 III-8)	パルマヒル 月 3

V. 再履修者用の科目（研究言語科目と共通）

- ◎ 1 年次、2 年次に落とした再履修できる地域言語 A のコマは、学期ごとに 2 コマのみです。落とした科目名 (フィリピン語 I-1 など) と同じ科目名で、しかも 2 コマだけしか再履修できません。残った 3 コマを落した場合には、翌年、履修してください。ただし 3 年進級要件は地域言語 A、15 コマです。地域言語 A を 15 コマ履修できて、3 年に進級したひとは、残りの 5 コマを、毎学期 4 コマ開かれている地域言語 A (フィリピン語 III) で充当して下さい。
- ◎ **1 年次の春学期**に、フィリピン語 I-1 とフィリピン語 I-3 を落とした人は、1 年次の秋学期に再履修できますが、あとの 3 つ地域言語 A のいずれかを落とした場合は、再履修できません。その場合、翌年の 2 年次春学期に、同じ科目名の 1 年生の授業を履修して下さい。
- ◎ **1 年次の秋学期**に、フィリピン語 I-9 とフィリピン語 I-10 を落とした人は、2 年次の春学期に再履修できますが、あとの 3 つ地域言語 A のいずれかを落とした場合は、再履修できません。その場合、翌年の 2 年次秋学期に、同じ科目名の 1 年生の授業を履修して下さい。
- ◎ **2 年次の春学期**に、フィリピン語 II-2 とフィリピン語 II-3 を落とした人は、秋学期に再履修できますが、あとの 3 つの地域言語 A のいずれかを落とした場合は、再履修できません。その場合、3 年次に地域言語 III で充当してください。しかしその際、3 年生進級要件である地域言語 A を 15 コマ修了していることが絶対条件です。地域言語 A を 15 コマ修了していない人は進級できません。2 年生に留まって、3 年生進級要件の 15 コマを修了してください。
- ◎ **2 年次の秋学期**に、フィリピン語 II-6 とフィリピン語 II-9 を落とした人で、3 年進級要件を満たしていないひとは、2 年生に留まって、春学期に再履修できます。しかし、あとの 3 つの地域言語 A のいずれかを落とした場合は、再履修できません。その場合、3 年次に地域言語 III で充当してください。しかしその際、3 年生進級要件である地域言語 A を 15 コマ修了していることが絶対条件です。地域言語 A を 15 コマ修了していない人は進級できません。2 年生に留まって、3 年生進級要件の 15 コマを修了してください。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
タガログ語会話 (SPH181G1DX)	地域言語 A (フィリピン語 I-9)	パルマヒル 木 2
タガログ語会話 (SPH181G2AX)	地域言語 A (フィリピン語 II-6)	パルマヒル 木 3
会話 2 A (SPH181C1A)	地域言語 A (フィリピン語 I-10)	小川英文 水 1
文法 4 D (SPH181G2DX)	地域言語 A (フィリピン語 II-9)	小川英文 月 3

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
タガログ語会話 (SPH182G1AX)	地域言語 A (フィリピン語 I-1)	パルマヒル 木 2
タガログ語会話 (SPH182G3BX)	地域言語 A (フィリピン語 II-2)	パルマヒル 木 3
文法 1 C (SPH182G1CX)	地域言語 A (フィリピン語 I-3)	小川英文 水 1
文法 3 C (SPH182G2CX)	地域言語 A (フィリピン語 II-3)	小川英文 月 3

VI. 地域言語 C としての履修

他専攻の学生が、フィリピン語を研究言語として履修する場合には、以下を履修してください。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 2 A (SPH181G1XX)	地域言語 C (アジア諸語 1)	パルマヒル 木 2
文法 2 B (SPH181G2XX)	地域言語 C (アジア諸語 1)	パルマヒル 木 3
文法 2 C (SPH181G3XX)	地域言語 C (アジア諸語 1)	小川英文 水 1
文法 2 D (SPH181G4XX)	地域言語 C (アジア諸語 1)	小川英文 月 3

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 1 A (SPH182G1XX)	地域言語 C (アジア諸語 2)	パルマヒル 木 2
文法 1 B (SPH182G2XX)	地域言語 C (アジア諸語 2)	パルマヒル 木 3
文法 1 C (SPH182G3XX)	地域言語 C (アジア諸語 2)	小川英文 水 1
文法 1 D (SPH182G4XX)	地域言語 C (アジア諸語 2)	小川英文 月 3

☆ タイ語

地域言語 A としての履修

「地域言語 A」は入学時に指定された言語を習得するための言語科目です。すべて半期毎に開講され、1

科目「1単位」が認定されます。

I. 1年次学生

(1) 春学期は次の5科目が必修です。

科目名	授業 題目名	学期	履修可 能年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
地域言語A (タイ語 I—1)	文法 1	春	1	ST181G1XX	宮田敏之	水・1
地域言語A (タイ語 I—2)	講読 1	春	1	ST181R1XX	宮田敏之	水・2
地域言語A (タイ語 I—3)	会話 1A	春	1	ST181C1AX	ラッタナー	火・2
地域言語A (タイ語 I—4)	会話 1B	春	1	ST181C1BX	ラッタナー	木・3
地域言語A (タイ語 I—5)	聴解 1	春	1	ST181H1XX	コースィット	金・3

(2) 秋学期は次の5科目が必修です。

科目名	授業 題目名	学期	履修可 能年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
地域言語A (タイ語 I—6)	文法 2	秋	1	ST182G2XX	コースィット	水・1
地域言語A (タイ語 I—7)	講読 2	秋	1	ST182R2XX	上原みどりこ	月・3
地域言語A (タイ語 I—8)	会話 2A	秋	1	ST182C2AX	ラッタナー	火・2
地域言語A (タイ語 I—9)	会話 2B	秋	1	ST182C2BX	ラッタナー	木・3
地域言語A (タイ語 I—10)	聴解 2	秋	1	ST182H2XX	コースィット	金・3

(3) 春学期に春学期「文法 1」の単位を取得できなかった者は下記の表の秋学期モジュールコード (ST182G1XK) の科目を、「会話 1A」の単位を取得できなかった者は、秋学期モジュールコード (ST182C1XK) の科目を受講できます。春学期に、これ以外の科目の単位を取得できなかった場合は、次年度の春学期以降に履修しなおして下さい。

科目名	授業 題目名	学期	履修可 能年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
地域言語A (タイ語 I—1)	文法 1	秋	1	ST182G1XK	上原みどりこ	月・4
地域言語A (タイ語 I—3)	会話 1	秋	1	ST182C1XK	ラッタナー	木・2

(4) 春学期に単位を取得できなかった科目があっても、上記 (2) の秋学期開講のタイ語 5 科目を履修することができます。その場合も、上記 (1) で単位を取得できなかった科目は、すべて、上の (3) の授業、あるいは次年度以降、履修しなければなりません。

(5) 帰国子女などタイ語を学習したことがある新入生は、上記の履修モデルによらず履修することができますが、履修登録する前に必ず専攻語教員に相談して下さい。

Ⅱ. 2 年次学生

(1) 第 1 年次から第 2 年次の間に地域言語 A タイ語を「15 単位」以上取得しなければ、第 3 年次に進級できません。第 3 年次から第 4 年次へ進級するときには要件はありません。

(2) **春学期**は次の 5 科目を履修することが最も望まれます。

科目名	授業 題目名	学期	履修可能 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
地域言語 A (タイ語Ⅱ—1)	文法 3	春	2	ST181G3XX	コースィット	木・3
地域言語 A (タイ語Ⅱ—2)	講読 3	春	2	ST181R3XX	宮田敏之	火・2
地域言語 A (タイ語Ⅱ—3)	会話 3	春	2	ST181C3XX	ラッタナー	火・3
地域言語 A (タイ語Ⅱ—4)	聴解 3	春	2	ST181H3XX	パタニ	水・2
地域言語 A (タイ語Ⅱ—5)	作文 1	春	2	ST181W1XX	ラッタナー	月・3

(3) 以下の科目は、前年度の秋学期に「会話 2 A」を取得できなかった者、および、他言語専攻の学生用の地域言語 C です。これ以外の科目は次年度の春学期以降に履修しなおして下さい。

科目名	授業 題目名	学期	履修可能 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
地域言語 A (タイ語Ⅰ—8)	会話 2	春	2-4	ST181C2XK	ラッタナー	木・2

(4) **秋学期**は次の 5 科目を履修することが最も望まれます。

科目名	授業 題目名	学期	履修可能 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
地域言語 A (タイ語Ⅱ—6)	文法 4	秋	2	ST182G4XX	コースィット	木・3
地域言語 A (タイ語Ⅱ—7)	講読 4	秋	2	ST182R4XX	宮田敏之	火・2
地域言語 A (タイ語Ⅱ—8)	会話 4	秋	2	ST182C4XX	ラッタナー	火・3
地域言語 A (タイ語Ⅱ—9)	聴解 4	秋	2	ST182H4XX	パタニ	水・2
地域言語 A (タイ語Ⅱ—10)	作文 2	秋	2	ST182W2XX	ラッタナー	月・3

(5) 春学期に単位を取得できない科目があっても、上記 (4) の秋学期開講の 5 科目を履修することができます。春学期に単位を取得できなかった科目は次年度以降、当該の科目を履修しなければなりません。

Ⅲ. 3 ～ 4 年次学生

(1) 「言語文化学部」の学生は「タイ語Ⅲ」(11 科目開講)の中から最低 8 科目 (8 単位)を必ず履修しなければなりません。「国際社会学部」の学生も「タイ語Ⅲ」(11 科目開講)を受講できます。タイ語学

習の集大成として、できるだけ、タイ語Ⅲを履修することが望めます。

(2) **春学期**に開講される「タイ語Ⅲ」は次の5科目です。

全ての授業が「再履修可」です。同じ科目を何度履修しても、単位が取得できれば、その単位はカウントされます。

科目名	授業 題目名	学期	履修可能 年次	モジュール コード	担当	曜限・時限
地域言語A（タイ語Ⅲ—2）	講読 5	春	3-4	ST181R5XR	水野 潔	水・2
地域言語A（タイ語Ⅲ—2）	講読 7	春	3-4	ST181R7XR	柴山信二郎	火・2
地域言語A（タイ語Ⅲ—2）	講読 9	春	3-4	ST181R9XR	コースィット	金・2
地域言語A（タイ語Ⅲ—3）	会話 5	春	3-4	ST181C5XR	ラッタナー	水・3
地域言語A（タイ語Ⅲ—4）	作文 3	春	3-4	ST161W3XR	ラッタナー	月・2

(3) **夏学期**に開講される「タイ語Ⅲ」は次の2科目です。

全ての授業が「再履修可」です。同じ科目を何度履修しても、単位が取得できれば、その単位はカウントされます。

科目名	授業 題目名	学期	履修可能 年次	モジュール コード	担当	曜限・時限
地域言語A（タイ語Ⅲ—2）	講読 8	夏	3-4	ST181R8XR	玉田芳史	集中
地域言語A（タイ語Ⅲ—3）	会話 7	夏	3-4	ST181C7XR	コースィット	集中

(4) **秋学期**に開講される「タイ語Ⅲ」は次の4科目です。

全ての授業が「再履修可」です。同じ科目を何度履修しても、単位が取得できれば、その単位はカウントされます。

科目名	授業 題目名	学期	履修可能 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限時
地域言語A（タイ語Ⅲ—6）	講読 6	秋	3-4	ST182R6XR	水野 潔	水・2
地域言語A（タイ語Ⅲ—6）	講読 10	秋	3-4	ST182R10XR	宮田敏之	木・2
地域言語A（タイ語Ⅲ—7）	会話 6	秋	3-4	ST182C6XR	ラッタナー	水・3
地域言語A（タイ語Ⅲ—8）	作文 4	秋	3-4	ST182W4XR	ラッタナー	月・2

IV. 2018 年度タイ語モジュール標準進度表

	G 文法	C 会話	R 講読	H 聴解	W 作文
1年 春学期	文法1宮田(水1)	会話1Aラッターナー(火2) 会話1B(ラッターナー木3) (再履修用・会話2)ラッターナー(木2)	講読1宮田(水2)	聴解1コースィット(金3)	
1年 秋学期	文法2コースィット(水1) (再履修用・文法1)上原(月4)	会話2Aラッターナー(火2) 会話2Bラッターナー(木3) (再履修用・会話1)ラッターナー(木2)	講読2上原(月3)	聴解2コースィット(金3)	
2年 春学期	文法3コースィット(木3)	会話3ラッターナー(火3)	講読3宮田(火2)	聴解3パタニ(水2)	作文1ラッターナー(月3)
2年 秋学期	文法4コースィット(木3)	会話4ラッターナー(火3)	講読4宮田(火2)	聴解4パタニ(水2)	作文2ラッターナー(月3)
3・4年 春学期		会話5ラッターナー(水3)	講読5水野(水2) 講読7柴山(火2) 講読9コースィット(金2)		作文3ラッターナー(月2)
3・4年 夏学期 集中講義		会話7コースィット(集中)	講読8 玉田(集中)		
3・4年 秋学期		会話6ラッターナー(水3)	講読6水野(水2) 講読10宮田(木2)		作文4ラッターナー(月2)

V. 2018 年度 タイ語モジュール時間割 (地域言語 A)

<注>①は1年生用の科目、②は2年生、③は3年生、④は4年生用の科目であることを示します。

【春学期】

	月	火	水	木	金
1			①文法1・宮田(水1)		
2	③④作文3・ラッターナー(月2)	①会話1A・ラッターナー(火2) ②講読3・宮田(火2) ③④講読7・柴山(火2)	①講読1・宮田(水2) ②聴解3・パタニ(水2) ③④講読5・水野(水2)	裏・会話2・ラッターナー(木2)	③④講読9・コースィット(金2)
3	②作文1・ラッターナー(月3)	②会話3・ラッターナー(火3)	③④会話5・ラッターナー(水3)	①会話1B・ラッターナー(木3) ②文法3・コースィット(木3)	①聴解1・コースィット(金3)
4					

【夏学期】集中講義

③④講読8・玉田芳史 夏学期・集中講義
③④会話7・コースイト 夏学期・集中講義

【秋学期】

	月	火	水	木	金
1			①文法2・コースイト(水1)		
2	③④作文4・ラッタナー(月2)	①会話2A・ラッタナー(火2) ②講読4・宮田(火2)	②聴解4・パタニ(水2) ③④講読6・水野(水2)	③④講読10・宮田(木2) 裏・会話1・ラッタナー(木2)	
3	①講読2・上原(月3) ②作文2・ラッタナー(月3)	②会話4・ラッタナー(火3)	③④会話6・ラッタナー(水3)	①会話2B・ラッタナー(木3) ②文法4・コースイト(木3)	①聴解2・コースイト(金3)
4	裏・文法1・上原(月4)				

VI. 地域言語Cとしての履修

受講前に、必ず、タイ語研究室教員に相談し、授業内容やレベルを確認した上で、受講の許可を受けてください。事前の相談なしにいきなり授業に出席しても、受講を許可できない場合がありますので注意してください。

タイ語を初めて学ぶ学生は、必ず以下の「タイ語 1」(秋学期)または「タイ語 2」(秋学期)から始めて下さい。

科目名	モジュール コード	授業 題目名	学期	履修可 能年次	担当	曜日・時限
地域言語C (アジア諸語 1)	ST1	タイ語 1	秋学期	3-4	上原みどりこ	月・4
地域言語C (アジア諸語 1)	ST2	タイ語 2	秋学期	3-4	ラッタナー	木・2

(アジア諸語 1) 初級および初中級レベル

科目名	モジュールコード	授業題目名	学期	担当者	曜日	時限	分野
地域言語C(アジア諸語1)	ST1	タイ語1	秋期	上原	月曜日	4	文法
地域言語C(アジア諸語1)	ST2	タイ語2	秋期	ラッタナー	木曜日	2	会話
地域言語C(アジア諸語1)	ST3	タイ語3	春期	ラッタナー	木曜日	2	会話
地域言語C(アジア諸語1)	ST4	タイ語4	春期	コースイット	木曜日	3	文法
地域言語C(アジア諸語1)	ST5	タイ語5	春期	宮田	火曜日	2	講読
地域言語C(アジア諸語1)	ST6	タイ語6	春期	ラッタナー	火曜日	3	会話
地域言語C(アジア諸語1)	ST7	タイ語7	春期	パタニ	水曜日	2	聴解
地域言語C(アジア諸語1)	ST8	タイ語8	春期	ラッタナー	月曜日	3	作文
地域言語C(アジア諸語1)	ST9	タイ語9	秋期	コースイット	木曜日	3	文法
地域言語C(アジア諸語1)	ST10	タイ語10	秋期	宮田	火曜日	2	講読
地域言語C(アジア諸語1)	ST11	タイ語11	秋期	ラッタナー	火曜日	3	会話
地域言語C(アジア諸語1)	ST12	タイ語12	秋期	パタニ	水曜日	2	聴解
地域言語C(アジア諸語1)	ST13	タイ語13	秋期	ラッタナー	月曜日	3	作文

(アジア諸語2) 中級および上級レベル

科目名	モジュールコード	授業題目名	学期	担当者	曜日	時限	分野
地域言語C(アジア諸語2)	ST14	タイ語14	春期	水野	水曜日	2	講読
地域言語C(アジア諸語2)	ST15	タイ語15	春期	柴山	火曜日	2	講読
地域言語C(アジア諸語2)	ST16	タイ語16	春期	コースイット	金曜日	2	講読
地域言語C(アジア諸語2)	ST17	タイ語17	夏学期	玉田	集中		講読
地域言語C(アジア諸語2)	ST18	タイ語18	春期	ラッタナー	水曜日	3	会話
地域言語C(アジア諸語2)	ST19	タイ語19	春期	ラッタナー	月曜日	2	作文
地域言語C(アジア諸語2)	ST20	タイ語20	秋期	水野	水曜日	2	講読
地域言語C(アジア諸語2)	ST21	タイ語21	秋期	宮田	木曜日	2	講読
地域言語C(アジア諸語2)	ST22	タイ語22	秋期	ラッタナー	水曜日	3	会話
地域言語C(アジア諸語2)	ST23	タイ語23	秋期	ラッタナー	月曜日	2	作文
地域言語C(アジア諸語2)	ST24	タイ語24	夏学期	コースイット	集中		会話

☆ラオス語

(1) どのカテゴリーも半期ごとに原則としてレベルを一つずつ上がっていくものとします。カテゴリーは下記のとおりです。

G: 文法 H: 聴解 R: 読解 C: 会話 W: 作文 T: 翻訳 P: 上級実践

(2) 下記の標準進度表を参考にして履修計画をたて、学期はじめの教員との面接に臨んでください。

・数字に下線が付してあるものは、コード末尾に-R がついています。これらは繰り返し履修でき、単位もその都度認められます。

	文法 G	聴解 H	読解 R	会話 C	作文 W	翻訳 T	上級実践 P
1 年春学期	I A, B, C	I		I			
1 年秋学期	II	II	I A, B	II			
2 年春学期		III (夏)	II A, B	III	I	I	

2 年秋学期			ⅢA, B	Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ	
3・4 年春学期			Ⅳ	Ⅴ	Ⅲ	Ⅲ, Ⅴ	Ⅰ, (夏)
3・4 年秋学期			Ⅴ	Ⅵ	Ⅳ	Ⅳ	

注意：2 年夏集中としてカテゴリーH「聴解 3」、3・4 年夏集中としてカテゴリーP「上級実践ラオス語」を開講の予定です。

(3) 以下は学年ごとの注意事項です。詳細は面接の際、個別に相談をしてください。

I. 1 年次生

- ・春学期は「文法 1A」「文法 1B」「文法 1C」「会話 1」「表現 1」の 5 コマを履修してください。
- ・秋学期は「文法 2」「会話 2」「表現 2」「読解 1A」「読解 1B」の 5 コマを履修してください。
- ・「文法 1A」「文法 1B」「文法 1C」は 3 コマー括履修です。ただし、春学期にこれらの単位を取得できなかった者は、冬学期に「文法 1」(集中)を履修して下さい。
- ・春学期に「会話 1」の単位を取得できなかった者は、秋学期に「会話 1」を受けて下さい。
- ・「読解 1A」「読解 1B」は 2 コマー括履修です。

II. 2 年次生

- ・春学期は「翻訳 1」「会話 3」「読解 2A」「読解 2B」「作文 1」の 5 コマを履修してください。
- ・秋学期は「翻訳 2」「会話 4」「読解 3A」「読解 3B」「作文 2」の 5 コマを履修してください。
- ・前年度、「会話 2」の単位を取得できなかった者は、春学期に「会話 2」を履修してください。
- ・前年度、「読解 1A」「読解 1B」の単位を取得できなかった者は、夏学期に「読解 1」(集中)を履修してください。
- ・春学期に「読解 2A」「読解 2B」の単位を取得できなかった者は、夏学期に「聴解 3」(集中)、冬学期に「読解 2」(集中)を履修してください。どちらか 1 コマでもかまいません。
- ・「読解 2A」「読解 2B」、および「読解 3A」「読解 3B」はそれぞれ 2 コマー括履修です。

III. 3～4 年次生

- ・上記(2)の標準進度表を参考に慎重に計画をたて、面接の際、個別に相談をしてください。
- ・夏学期に「上級実践ラオス語」(集中)を開講の予定です。説明会を春学期初めに行いますので、履修を希望する学生は必ず出席してください。日時は追ってお知らせします。

地域言語Cとしての履修

- (1) 初めてラオス語を学ぶ者は、秋学期から「ラオス語会話1」(月・3)が履修できます。
- (2) (1) 以外の下記クラスは、ラオス語の読み書きができ、初級文法をひととおり終えている者が対象です。

「ラオス語会話2」「ラオス語会話5」「ラオス語作文3」「ラオス語読解4」「ラオス語翻訳3」「ラオス語翻訳5」(以上春学期開講)「ラオス語読解1」「ラオス語聴解3」(夏集中)「ラオス語会話1」「ラオス語会話6」「ラオス語作文4」「ラオス語読解5」「ラオス語翻訳4」(以上秋学期開講)「ラオス語読解2」(冬集中)

ただし、内容や難易度が各コマで異なりますので、必ず事前にメールで連絡の上、ラオス語担当の日本人教員と相談の上、受講の許可を受けて下さい。

☆ ベトナム語

地域言語Aとしての履修

- (1) 言語文化学部 of 学生は、第1年次から第4年次までに28単位を履修します。
- (2) 国際社会学部 of 学生は、第1年次から第2年次までに20単位を履修します。第3年次から第4年次にかけて、さらに選択履修することも可能です。積極的な履修をすすめます。
- (3) 言語文化学部、国際社会学部ともに、第2年次末までに15単位履修(ベトナム語Ⅰとベトナム語Ⅱから)が進級要件に含まれています。
- (4) 各科目ともレベル1、2に関しては、2学期に再履修用科目が設定されているものとそうでないものがあります。
- (5) 「文法Ⅰ-1,2」は2コマセット履修科目です。単位は1コマ(1単位)ずつの認定で、2単位の認定をもって履修済となります。2単位に満たない場合は、次のセメスター(秋学期)での2コマセット再履修が必要になります。
- (6) 「読解Ⅰ-3」、「会話Ⅰ-4」は、それぞれ未履修の場合、「読解Ⅰ-7」、「会話Ⅰ-8」を履修することができません。また、次のセメスター(秋学期)でのそれぞれの科目の再履修ができないので、注意してください。
- (7) 「表現Ⅰ-10」は秋学期から開講します。
- (8) 秋学期の科目履修登録を忘れる学生が見受けられます。このようなことがないように十分注意してください。

*** 標準的な履修手順**

	文法 G	読解 R	会話 C	聴解 L	表現 E	履修単位
1 年次春学期	I -1, 2	I -3	I -4	I -5		5
1 年次秋学期	I -6 <u>I -1, 2</u>	I -7	I -8	I -9 <u>I -5</u>	I -10	5
2 年次春学期	II -1 <u>I -6</u>	II -2	II -3	II -4	II -5	5
2 年次秋学期	II -6	II -7	II -8	II -9	II -10	5
3 年次春学期		III -1	III -2	III -3	III -4	8
3 年次秋学期		III -5	III -6	III -7	III -8	
4 年次春学期		III -1	III -2	III -3		
4 年次秋学期		III -5	III -6	III -7		

下線付きの科目は、再履修用科目および地域言語 C 科目です。

- モジュールコード末尾に付された R 記号は、反復 (Repeat) 履修可能科目です。積極的な履修活用をすすめます。

地域言語 C としての履修

- (1) 春学期開講の「ベトナム語文法 2」(水・2) および「ベトナム語聴解 1」(秋学期、金・1) は再履修者用の科目であるので、初心者の履修は不可。
- (2) 「ベトナム語文法 1」(秋学期、木・1) および「ベトナム語文法 2」(秋学期、木・2) は 2 コマセットで履修することが望ましい。こちらは初心者の履修も可。
- (3) ベトナム語の基礎を既習の学生には、上記以外の授業科目も地域言語 C 科目として履修を認める場合がある。相談の上受講を許可するので、ベトナム語専攻の教員にあらかじめ申し出ること。

☆ カンボジア語

地域言語 A としての履修

カテゴリー G: 文法 W: 作文 C: 会話 R: 講読

履修上の注意

- (1) 1 年次の春学期には SCA1G1AX, SCA1G1BX, SCA1G1CX, SCA1G1DX, SCA1C1XX の 5 コマを履修してください。
- (2) 1 年次の秋学期には SCA2R1AX, SCA2R1BX, SCA2W1XX, SCA2G2XX, SCA2C2XX の 5 コマを履修してく

ださい。

(3) 1 年次の春学期 G1 の単位未修得の場合は、秋学期に SCA2G1XX の 1 コマを履修してください。

(4) 2 年次以上の履修については、学期ごとの説明会の際、説明します。

地域言語Cとしての履修

既習者向けの上級を開講します。履修前に、レベル判定をしますので、<cam-hp@tufs.ac.jp>まで連絡してください。

教員名	授業題目名	単位	曜日・時限	内容	備考
バン	カンボジア語上級 1	1	月・2	作文の授業（使用言語カンボジア語のみ）	春学期開講
バン	カンボジア語上級 2	1	月・2	作文の授業（使用言語カンボジア語のみ）	秋学期開講

☆ ビルマ語

地域言語Aとしての履修

地域言語 A（ビルマ語）の標準履修パターン

学年	学期	会話系	文法・読解系			作文系
1	1	C1	G1A	G1B	G1C	W1
	2	C2	G2A	G2B	R1	W2
2	1	C3	G3	R2A	R2B	W3
	2	C4	G4	R3A	R3B	W4
3	1	P1	/	R4 以上*		T1*
	2	P2				T2*
4	1	P3*				
	2	P4*				

*は反復履修が可能な授業

(1) 1 学年と 2 学年では基本的に標準履修パターンに沿って履修して下さい。3 学年以上では開講されている科目から自由に選んで履修することができます（ただし取得済み科目の状況による履修の制限はあります）。

(2) 1 学年と 2 学年で不合格の科目がある場合、必ず教員の履修指導を受けてから履修登録をして下さい。

※1 学年は学期末に教員による面談を行ない、そこで履修指導をします。

※同じ学期分で3科目以上不合格となった場合は、翌年に1科目以上再履修しなければなりません。

- (3) 原則として同系列の直前の科目が不合格の場合、当該レベルの科目は履修できますが、その上の科目は履修できません。ただしPとRの一部はそれができません(次項を参照)。またTについても特記事項があります(5を参照)。

例1: C1が不合格の場合、1学年秋学期にC2を履修することは可能。

例2: G4が不合格で3学年春学期にR4Aに合格した場合、3年秋学期にG4とR4Bを同時に履修可能。

- (4) P3およびP4は原則としてP1とP2の両方を取得済みでないと履修することができません。またR6、T7は原則としてR4A、R4B、R5のうち二つ以上を取得済みでないと履修することができません。ただし現地留学を経験しているなどの場合は教員が特別に履修を許可することがありますので、事前に教員に相談して下さい。

- (5) TはW4に加え、G4も取得済みでないと履修することができません。

地域言語Cとしての履修

- (1) 春学期のビルマ語初級として「会話1」「文法1A」「文法1B」「文法1C」「作文1」の5科目を履修することができます。原則としてこの5科目をまとめて履修して下さい。ただし履修状況などにより、どうしても5科目を同時に受講することが難しい場合は、履修登録をする前に地域言語代表教員のところまで相談をしに来て下さい。
- (2) 秋学期のビルマ語初級として「会話2」「文法2A」「文法2B」「読解1」「作文2」の5科目を履修することができます。原則として会話1、文法1A、文法1B、文法1C、作文1の5科目を受講しているものに限ります。この5科目を受講していない場合は、履修登録をする前に地域言語代表教員のところまで相談をしに来て下さい。なお文法2A、2Bはなるべく同時に履修して下さい。
- (3) さらに上のレベルのビルマ語を身につけたい場合、ビルマ語中級として春学期に「会話3」「文法3」「読解2A」「読解2B」「作文3」が、秋学期に「会話4」「文法4」「読解3A」「読解3B」「作文4」を受講することができます。ただしビルマ語初級の受講状況により、履修が許可されない場合もありますので、履修登録をする前に地域言語代表教員のところまで相談をしに来て下さい。

☆ ヒンディー語

地域言語Aとしての履修

<新入学生へ、(両学部とも)>

- (1) 春学期には SHI181G1AX, SHI181G1BX, SHI181G1CX, SHI181W1XX, SHI181C1XX の5コマを必ず履修してください。
- (2) 文法の授業である -1G1A-, -1G1B-の単位が取得できなかった場合、秋学期に同じ内容で開講される -2G1A-, -2G1B-を必要に応じて履修して下さい。その場合、同時に、-2G2A-, -2G2B-, -2G2C-も履修することは可能ですが、担当教員の助言に基づき判断して下さい。-1G1C-および-2G2C-が習得できなかった場合は、翌年に開講される同じ授業を履修することになります。
- (3) -1W1-, -1C1- のそれぞれについては、単位の取得・未取得に関わらず、秋学期に -2W1-, -2C1- を履修してください。ただし、1学期に未取得のコマについては、-2W1-, -2C1-の単位の有無に関わらず、次年度の1学期に再履修しなければなりません。すなわち、-W- (作文)、-C- (会話) については、レベルごとに2単位を修得しなければ次のレベルに進むことはできません。
- (4) 秋学期の履修についての詳細は、9月末（もしくは10月初旬）に実施する個人面談で個別に指示します。
- (5) 国際社会学部所属の学生が卒業までに履修すべき授業の選択については、3年次以降、個別に指導します。

<2年次以上の学生へ、(両学部とも)>

- ・春学期と秋学期の始業前に実施する「個人面談」で履修指導しますので、必ず面談を受けてください。面談のスケジュールは配付済みですが、808 研究室前にも掲示してあります。

地域言語Cとしての履修

<「ヒンディー語」を初めて学ぶ学生へ>

秋学期開講の「ヒンディー語入門 (文法 1a)」(金・4)、「ヒンディー語入門 (文法 1b)」(木・6)、から履修して下さい。これら2コマはすべて履修することが望ましいのですが、やむを得ない場合は、いずれか一コマだけを選択しても、必要最小限の文字および文法基礎は学ぶことができます。

履修登録のまえに、必ず担当の水野先生と、よく相談してください。

<文法の基礎を既習の学生へ>

「文法 1」の2単位を全て取得している者、またはそれに準ずると認められた者は、春学期に開講される上位レベルの「文法 2a」(金・4)「文法 2b」(木・6)を履修することが出来ます。この2コマはすべて履修することが望ましいのですが、やむを得ない場合は、いずれか一コマだけを選択して

も、必要最小限の基本文法は学ぶことが可能です。

☆ ウルドゥー語

地域言語 A としての履修

I. 1 年次生

(1) 1 年次春学期には以下の 5 コマを必ず履修してください。

SUR181G1AX (萬宮)
SUR181G1BX (萩田)
SUR181G1CX (萬宮)
SUR181C1AX (アーミル)
SUR181C1BX (アーミル)

(2) 春学期に G1 (3 コマ), C1 (2 コマ) の全ての単位を取得したら, 秋学期も同様に以下の 5 コマを必ず履修してください。

SUR182G2AX (萬宮)
SUR182G2BX (萩田)
SUR182G2CX (萬宮)
SUR182C2AX (アーミル)
SUR182C2BX (アーミル)

II. 2 年次生

(1) 2 年次春学期には以下の 5 コマを履修してください。

SUR181R1AX (萩田)
SUR181R1BX (萩田)
SUR181W1XX (萬宮)
SUR181C3AX (アーミル)
SUR181C3BX (アーミル)

(2) 2 年次秋学期には以下の 5 コマを履修してください。

SUR182R2AX (萩田)
SUR182R2BX (萩田)
SUR182W2XX (萬宮)
SUR182C4AX (アーミル)
SUR182C4BX (アーミル)

3 年次以降の履修については春学期開始後、教員より授業中か個人別に指示します。

地域言語 C としての履修

- (1) 地域言語 C として、初めてウルドゥー語を学ぶひとは、ウルドゥー語初級、すなわち秋学期開講の以下の科目から選択して履修してください。

SUR182G1AX (露口/月 5)

SUR182G1BX (露口/木 6)

- (2) ウルドゥー語中級を学ぶひとは、春学期・夏学期・秋学期開講の以下の科目から選択して履修してください。その場合、初級を少なくとも 1 コマ履修済みであることが中級の履修条件になります。

SUR181G2AX (露口/月 5)

SUR181G2BX (露口/木 6)

SUR181G2CX (萬宮/集中)

SUR182G1CX (萩田/火 5)

☆ ベンガル語

地域言語 A としての履修

1 年次には以下の授業を取ってください。すべて必修です。

春学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A ベンガル語 I-1	文法 A	丹羽	火・2
地域言語 A ベンガル語 I-2	文法 B	丹羽	月・3
地域言語 A ベンガル語 I-3	文法 C	奥田	火・3
地域言語 A ベンガル語 I-4	会話 I a	マンダル	金・1
地域言語 A ベンガル語 I-5	作文 I a	ハック	木・3

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A ベンガル語 I－6	文法 D	丹羽	月・3
地域言語 A ベンガル語 I－7	読解基礎	奥田	木・3
地域言語 A ベンガル語 I－8	作文基礎	渡辺	水・2
地域言語 A ベンガル語 I－9	会話 I b	マンダル	火・2
地域言語 A ベンガル語 I－10	作文 I b	マンダル	水・1

文法 ABC を未取得の場合、上級科目の履修ができなくなります。これらを取得できなかった場合、次学期以降の再履修者用科目を取得する必要がありますが、再履修時のカリキュラムの組み方については必ず履修登録前に担当教員に相談してください。

2 年次には以下の授業を取ってください。すべて必修です。

春学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A ベンガル語 II－1	会話 II a	マンダル	火・3
地域言語 A ベンガル語 II－2	読解 II b	奥田	木・3
地域言語 A ベンガル語 II－3	読解 II c	日下部	月・3
地域言語 A ベンガル語 II－4	読解 II a	丹羽	水・2
地域言語 A ベンガル語 II－5	作文 II a	渡辺	火・2

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A ベンガル語 II－6	読解 II d	丹羽	火・2
地域言語 A ベンガル語 II－7	読解 II e	丹羽	水・2
地域言語 A ベンガル語 II－8	読解 II f	マンダル	月・3
地域言語 A ベンガル語 II－9	会話 II b	マンダル	火・3
地域言語 A ベンガル語 II－10	作文 II b	ハック	木・3

II－1～II－10 を取るためには、I－1～I－10 が履修済みであることが条件となります。場合によっては同時履修が可能なこともありますが、その際は必ず履修登録前に担当教員に相談してください。

3年次以上では、次の授業を取ることができます。言語文化学部では、3，4年次で8コマの授業を取ることが義務付けられています。国際社会学部では義務はありませんが、できるだけ取ることが推奨されています。

春学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－1	表現Ⅲa	ハック	木・2
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－2	表現Ⅲb	マンダル	火・1
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－4	講読Ⅲa	丹羽	月・2
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－5	講読Ⅲb	渡辺	金・2

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－3	表現Ⅲc	ハック	木・2
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－6	表現Ⅲd	マンダル	火・1
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－7	講読Ⅲc	丹羽	月・2
地域言語 A ベンガル語Ⅲ－8	講読Ⅲd	渡辺	金・2

Ⅲ－1～8を取るためには、Ⅰ－1～Ⅰ－10およびⅡ－1～Ⅱ－10が履修済みであることが条件となります。場合によっては同時履修が可能なこともありますが、その際は必ず履修登録前に担当教員に相談してください。

地域言語Cとしての履修

春学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 C（アジア諸語 1）	ベンガル語 d	マンダル	水・3

夏学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 C（アジア諸語 2）	ベンガル語 a	丹羽	集中

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
地域言語 C (アジア諸語 1)	ベンガル語 b	奥田	月・2
地域言語 C (アジア諸語 1)	ベンガル語 c	マンダル	水・3

初めてベンガル語を学ぶ人は、夏学期のベンガル語 a から始めて、a, b, c, d の順に学んでいってください。
それぞれの授業の内容は、それ以前のことを履修した人か、同程度のベンガル語力がある人を対象としています。

☆ ペルシア語

カテゴリー G: 文法 W: 作文 C: 会話 R: 読解 H

地域言語 A としての履修

I. 1 年次生

(1) 1 年次春学期には以下の 5 コマを必ず履修してください。

SPR181G1AX (吉枝)

SPR181G1BX (吉枝)

SPR181G1CX (鈴木)

SPR181C1AX (ジャキビロー)

SPR181C1BX (ジャキビロー)

(2) 春学期に G1 (3 コマ), C1 (2 コマ) の全ての単位を取得したら、秋学期も同様に以下の 5 コマを必ず履修してください。

SPR182G2AX (吉枝)

SPR182G2BX (吉枝)

SPR182G2CX (佐々木)

SPR182C2AX (ジャキビロー)

SPR182C2BX (ジャキビロー)

G1・G2 (各 3 コマ), C1・C2 (各 2 コマ) は、セット履修となります。各セットのうち 1 コマでも単位未取

得の場合は、次学期以降に、相当するカテゴリのコマを再度セットとして履修する必要があります。その場合は、時間割上、他科目と競合しないよう、予め充分注意してください。なお、カテゴリ C については、レベル 1 の授業は春学期のみの開講となることに留意してください。

II. 2 年次以降の学生

- (1) カテゴリ G のレベル 1 の修得後は、他カテゴリ R, W, H の履修をレベル 1 より始めることができます。
- (2) カテゴリ G のレベル 1・2, およびカテゴリ C のレベル 1・2, カテゴリ R, W, H のレベル 1 の授業 (R1, W1, H1) は、必ず履修してください。
- (3) 原則として、単位修得レベルより下のレベルの授業を再履修することはできません。ただし、R3, 4 はレベル 4 を修得後であっても反復履修は可能です。

地域言語 C としての履修

- (1) 初めてペルシア語を学ぶ人は、春学期開講の SPR181G1AX (吉枝), SPR181G1BX (吉枝), SPR181G1CX (鈴木), SPR181C1AX (シャキビノ), SPR181C1BX (シャキビノ) を履修することができます。なお、G1 (3 コマ), C1 (2 コマ) は原則としてセット履修となります。
- (2) (1) 以外の上位レベルクラスを受講希望の場合は、ペルシア語専攻教員と必ず事前に相談のうえ、履修してください。

☆ トルコ語

地域言語 A としての履修

1 年次春学期には以下の 6 コマをすべて履修してください。

- トルコ語 I-1 STR181G1AX (佐藤)
- トルコ語 I-2 STR181G1BX (菅原)
- トルコ語 I-4 STR181G1CX (菅原)
- トルコ語 I-3 STR181C1AX (クルチ)
- トルコ語 I-5 STR181C1BX (クルチ)
- トルコ語 I-6 STR181G1DX (菅原)

1 年次秋学期には以下の 5 コマをすべて履修してください。

トルコ語 I-7 STR182C2XX (未定)
トルコ語 I-8 STR182W2XX (未定)
トルコ語 I-9 STR182R1AX (石丸)
トルコ語 I-10 STR182R1BX (林)
トルコ語 II-1 STR182G2XX (菅原)

2 年次春学期には以下の 5 コマをすべて履修してください。

トルコ語 II-2 STR181G3XX (菅原)
トルコ語 II-3 STR181C3XX (クルチ)
トルコ語 II-4 STR181W3XX (クルチ)
トルコ語 II-5 STR181R2AX (林)
トルコ語 II-6 STR181R2BX (石丸)

2 年次秋学期には以下の 4 コマをすべて履修してください。

トルコ語 II-7 STR182C4XX (未定)
トルコ語 II-8 STR182W4XX (未定)
トルコ語 II-9 STR182R3AX (石丸)
トルコ語 II-10 STR182R3BX (山下)

注意 トルコ語に「配属」されている学生は「地域言語 C」として開講されているトルコ語の授業を履修できません

地域言語 C としての履修

はじめてトルコ語を学ぶ人は、まず春学期開講の

トルコ語文法 1A (石丸 火 4)

を履修してください。

トルコ語をすでに学んでいる受講生は、春学期・秋学期に開講される中・上級者用の授業を履修することができる場合がありますから、レベルに関して担当講師と相談の上、履修する授業を決定してください。